



翔 洋

令和6年3月1日
PTA 通信
総務部編集
第50号



北海道厚岸翔洋高等学校
ホームページ

「輝かしい未来へ」

PTA会長 日向 秀樹

厚岸翔洋高等学校を卒業する皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者を代表いたしまして、心からお祝いを申し上げます。

皆さんはこれから、自分の強い意思のもと選んだ、夫々の道に進むわけでございますが、新しい道に進むのは希望や楽しみも多くある半面、漠然とした不安を感じている部分もあると思います。しかし、不安を強く持つ必要は全くありません。厚岸翔洋高校で三年間学んだ沢山の実績に自信をもち、これから一日一日、日々出来ることにしっかり向き合って取り組めば、間違いなく素晴らしい未来が待っています。

また、これからは新しい出会いが沢山あり、人との交わりが年々増えていきます。その中で皆さんが幸せになる為に、アドバイスさせて頂くとしたら『人を幸せにするとおのずと自分も幸せになれる』ということです。自分の事だけ考えるのではなく、常に周りを思いやり、周りが幸せを感じるとその気持ちは自分に返ってきます。『企業は人なり』と有名な言葉がありますが『あなたと言う人材が最大の財産である』と言われるような立派な社会人になってくれることを期待しております。

そして、将来の成長した姿を、今まで大切に育ててくれたご家族や、お世話になった先生方に見せて下さい。それが何よりの恩返しです。それから、3年間の長きに亘り、粘り強くご指導賜りました山本校長始め全ての先生方に、心から感謝を申し上げます。

結びに、厚岸唯一の高校である厚岸翔洋高等学校が、これからも子供達にとって最高の学び舎となり、益々発展することをお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



3年間の軌跡



「チャレンジ」

厚岸翔洋高校 校長 山本 十三

往々にして人は、不慣れな場面では周りの流れにのまれたり、自身の立ち位置を見失い不安になったり、つい自分と周りとを比較してしまいます。そうした時、私は自分で立てた目標など意識するようにしています。

また、新たなことにチャレンジするときは、思いどおりにいかないことや失敗はよくあることかと思えます。そんな時、私は、思い出す言葉があります。よく知られている言葉ですが、「失敗は成功のもと」です。この言葉は、「多くの失敗があって成功につながる」ということですが、人は、そもそも自尊心、プライドがあって、自分の失敗は認めたくないものです。そして、「失敗は恥ずかしいこと」、「失敗したらと考えると不安で一步が踏み出せない」、そう感じることもあるかと思えます。しかし、新たなことにチャレンジする場面では、失敗やうまくいかないことはよくあることです。「失敗してもいいや」といった気持ちで物事にチャレンジし、失敗しながらも、一步の前進、そうした小さな成功や経験の積み重ねがゴールへと繋がります。失敗を恐れ不安になると、つい自分と他者を比べ、一時的に安心を得たくなるものですが、そうした思が強くなってしまふとついにはチャレンジする気持ちを押さえてしまいます。新たな取り組みには、失敗はつきもの。皆、同じです。他者をあまりに意識せず、これからも、生徒の皆さんには多くのことにチャレンジして欲しいと思います。

結びに、この春、本校を旅立つ卒業生に改めて次の言葉を贈ります。「一視同仁」これからも、この言葉を胸に大いにチャレンジしてください。



3 学年担任挨拶

< 3 年普通科担任 大原 昌也 先生 >

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、三年間お側で支えてくださった保護者・地域の皆様に、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。さて、SNS が普及しきった近年、辺りを見渡せば、英検 1 級を取得した小学生、会社を経営する中学生、TikTok で凄まじいフォロワー数を誇る高校生…など、「すごい人」がそこかしこに存在していて、まるで自らがつまらない人間であるかのように錯覚してしまうこともあるかと思えます。そんな「すごい人」が点在、或いは遍在する世の中で、恐らく「普通」な皆さんの価値とは何でしょうか。

私の意見では、それは「今ここにいること」だと思います。例えば、私より優れた外国語教諭は日本全国数え切れないほど存在します。それどころか、私が教える必要もないほど英語が堪能な高校生もいることでしょう。何とも立つ瀬がありませんね。しかしながら、一月一八日の四時間目、この学校で、一年普通科英語 CI の授業をする人は私以外に存在せず、どんなに能力が高い人でも代わることはできません。つまり、「その時あなたの目の前にある人やものに注力すること」こそが、あなたにしかできない、唯一不可侵にして絶対の価値であると私は考えます。

広い世界、長い人生で、悩みはつきません。それでも自らの価値を疑うことなく、「その時」「そこ」で、皆さんが力を発揮しながら、輝かしい未来を創っていくことを期待しています。



< 3 年海洋資源科担任 阪本 貴亮 先生 >

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様におかれましても、日頃のご支援への感謝と共に、お子様の門出をお祝い申し上げます。

海洋資源科の皆さんとはこの 3 年間多くの時間を共有してきました。この時間を費やして皆さんはどんな経験をしてきたのでしょうか。

突然ではありますが、能楽の大家として知られる世阿弥が『花鏡』にて著した芸の知恵「初心不可忘（しよしん、わするべからず）」という言葉卒業生の皆さんに送ります。皆さんには「謙虚さ」をこれまで長く説いてきましたが、この言葉をしっかり理解してこの学び舎を旅立って欲しいと思います。

世阿弥は、この知恵を 3 つに分けて説明しました。まず「是非初心不可忘」といい、若い頃の未熟さを忘れなければ、そこから向上した今も正しく認識できるとしました。次に「時々初心忘不可」といい、年盛りから老後に至るまでの各段階、それぞれの初めての経験の大切さを説きます。最後に「老後初心忘不可」といい、老後にさえ初心があり、それを忘れずに限りなく研鑽に励むことを求めました。

この先の人生は、絶え間ない初心と現状の自分との比較が始まります。それは有意義なことではありますが、苦難の道とも言えるでしょう。しかしながら、それを追い求める中でいずれ皆さんなりの「花」が咲くことを私は願っています。

